



1 明科園小中高『第1回明科園小中高研修会』 5月19日（火）

「園小中高の連携推進に向けて、職員の交流促進を図る」「TOCO-TONを進めるため、知識と情報の共有と意見交換を行う」ことを目的とし、園小中高の先生方による研修会を行っています。一昨年度までは、小中一貫教育推進校の取り組みとして小・中学校のみで行っていましたが、昨年度より、TOCO-TONの研修も含めて園小中高で実施しています。本年度第1回は、明南小の計画で「①小学校授業参観 ②参観した授業や連携についての対話 ③早坂淳先生（長野大学社会福祉学部教授）の講演」を実施しました。



授業参観は、自由に各教室を回りました。1～4年生は、各教室で、国語・算数・図工等の教科学習を進めていました。机の並びを工夫しているクラスもありました。5・6年生は、運動会間近で、組体操の練習を仲間と協力して行っていました。自分の思いを自分の言葉で表現し、生き生きと学ぶ姿を参観させていただきました。



園小中高研修会で、早坂先生にご講演をいただくのは、昨年度に引き続き2回目となります。演題は『多様性（ばらばら）×（だけど）協働（ひとつに）～新しい価値観～』です。TOCO-TON（トコトン）やCS（コミュニティスクール）を手段として、願うのは「みんなの幸せ」であるというお話から講演が始まりました。生成AIの急速な進化も伴い、時代が変われば“当たり前”が変わること、そのためには“子どもを変える”のではなく“環境を調整”する必要性があり、子どもの課題は、環境とのミスマッチで生じるとのことでした。日本における第一次～第四次産業革命、世界の動向、新CS「多様性の包摂」等々、加速していく社会の様々な変化を視点とし、貴重なお話をいただきました。変化が苦手な私たちではありますが、「みんなの幸せ」のために、新しい当たり前へと変えるべき時が来ています。



講演会では、早坂先生から幾つかの問いが投げかけられ、先生方はグループに分かれて語り合いました。問いに対し、先生方の経験や考え方をもとに熱心に対話する姿が見られました。どうしていま TOCO-TON? どうしていま CS? なのか、これからの学校の姿について思いを語り合うことができました。

<研修会 振り返り>

早坂先生のお話はいつもありがたいです。先生方皆で考えて、新しい学校づくりにチャレンジしたいなと思いました。まずは何から始めればいいのか…、対話ですね。

これからも、子どもたちが、「本校に通っているからこそできる学びとは？」ということを考えながら暮らしていきたいと思いました。

クラスの子どもたちと、全校の子どもたちと、先生たちと、どんな新しいワクワクが作り出せるのか、楽しみにになりました。

子どもの神経多様性を変えようとして、自分が苦しんでいたことに気づくことができました。ただ一つ心配だと思ったことは、学校という社会がこうやって変わったとしても、子どもたちが将来出る社会が変わっていないのなら、それは結局意味がないことではないかとも思ってしまいました。忍耐ということも教える必要があるのではと思い、また是非質問させていただきたいです。

最近は、子どもの特性を認め、子どもの学びたい姿勢（机の位置や向き）の環境には対応できるようになっていると思う。なので、早坂先生のおっしゃることは苦しくなく受け止めることができました。しかし、その前の課題として、自尊感情が低下してしまっている子どもの対応が難しい。子どもの権利…これから、私たちにできることを学んでいきたい。

トコトンの活動は、つい行事とか校外学習とか生活・総合に焦点をあてたくなるのですが、子どもとトコトン楽しむ授業づくりを、皆で考え実践したいです。

従来の講義型の授業を減らすことを考えたい。Bannister Effect を目指したい。

全ての振り返りは載せられませんが、仲間と語り合うことで、今の自分の思いを整理し方向性を見いだしたり、新たな疑問や課題が生まれたりする対話を、今後も大切にしていきたいと思いました。